

論文審査の結果の要旨

2022年 2月 19日

申請者： 吉久保 匡甫

論文題目： 漢方薬大建中湯の胃粘膜血流増大作用に関する薬理学的研究

— 温度感受性 transient receptor potential チャネルの関与および投与時の溶液温度による効力変化 —

漢方薬は西洋薬のように単一成分の薬剤とは異なり添付文書の効能の効果だけでは、漢方薬の効果のすべてを理解することは難しい。申請者は、漢方薬大建中湯（DKT）について、術後イレウスなどの下部消化管疾患に用いられるが、消化管全体を温めて立て直す漢方薬であることから上部消化管にも作用すると考えた。また、申請者は、DKT が下部消化管だけでなく消化管全体に作用して効果を現わす科学的根拠は、「DKT が消化管に発現する温度感受性 TRPV1 および TRPA1 チャネルへの刺激を介して胃や腸管粘膜血流を増大させる」という仮説を立て、消化管に発現する温度感受性 TRPV1 および TRPA1 チャネルへの刺激を介して胃粘膜血流を増大させることも関与しているかどうかについて動物実験で検討したものである。

その結果、未だ解明されていない上部消化管における薬理作用について DKT が温度感受性 TRPV1 および TRPA1 チャネルへの刺激を介して胃粘膜血流を増大させることが明らかになり、下部消化管だけでなく消化管全域に作用して効果を現わすことを見出した。

特に漢方薬である大建中湯が小腸の粘膜血流改善に加え、胃の粘膜血流改善作用によっても腹痛を改善することが考えられ、確固たる薬理学的な作用メカニズムを介して薬効を示していることが明らかにしたことは、大きな意義のあるものであると判断した。また、論文の主旨は一貫しており、内容は明確でわかり易いと審査の段階で高く評価された。漢方薬の作用を科学的に解明し、現場の薬剤師が的確な使用や患者への服薬指導に利用できる研究は、有意義な成果である。

以上より、本研究は学位授与に値するものであり、博士論文として十分価値あるものと判断した。

最後に、この研究のように臨床における疑問に対して大学院で科学的根拠を追求する薬剤師が増えることで、医療現場に優れた医療人材とマインドが醸成されることに期待したい。

以上

審査員（主査） 秋元 雅之

審査員（副査） 西口 慶一

審査員（副査） 山崎 研

審査員（副査）